

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	喜田 里実	学校名	袖ヶ浦東小学校
実施学年	2学年	教科	自立活動
単元名	吃音理解授業をしよう		

### 《学びを深めたいポイント》

- ・吃音症によりことばの教室に通級している児童が、吃音症や自分のことについてクラスの友達に知ってもらいたいという自発的なモチベーションから展開された単元である。この主体的な姿勢が単元を通して維持できるような活動内容を考えていく。
- ・タブレットを用いて吃音について調べる。知識として調べるにとどまらず、自分が知っていることや自身の吃音の特徴と比べられるように対話し、児童が自身の吃音について前向きに受け取れるよう配慮する。
- ・吃音が出たときに周囲にどのような対応をしてほしいのか、またその時はどのような気持ちなのかを具体的に想起させる。児童が自分の言葉で伝えることができるようになることが大切である。
- ・発表の練習では、なるべくスライドを見ないで話せるよう何度もリハーサルをし、友達の反応を受け取ったり自分が伝えたいことに気持ちをのせて話したりできるように取り組んだ。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

- ・SKYMENU の「シンプルプレゼン」機能を活用して発表用のスライドを作っていく。一般的なスライド作成アプリと比較して入力できる文字数がかなり少ないため、キーワードとなる言葉のみにしぼる必要がある。
- ・文字の大きさや色なども2択から選ぶ仕様のため、色やフォントなどに必要以上に時間をかけて凝ったものにするということがない。純粹に内容に焦点を当ててスライド作りを進めることができる。
- ・文字は手書き入力機能を使った。タイピングによる入力が難しくても、手書きで入力することができたためスムーズに作れた。
- ・1テーマ1スライドと決め、まずは話したいことをどんどんスライドにしていく。吃音クイズも1問1スライドで作っていった。スライドショーに反映させられるスライド数に上限があるため、本当に伝えたいことを考えた上でスライドを採用したり並び替えたりすることが重要だ。この思考の時間が、児童の主体的で深い学びにつながると考える。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>○活動内容を知る</p> <p>・吃音についてスライドを作ってクラスの友達に伝える「吃音理解授業」をすることを知り、活動の見通しをもつ。</p>	<p>○「シンプルプレゼン」を操作してみる</p> <p>・初めて使う機能のため、どのような機能があるのかを知るために自由に操作をしてみる。</p>	<p>・「シンプルプレゼン」でできることと併せて、制限されていること(文字数やフォントなど)も確認する。</p>
展 開	<p>○スライドをつくる</p> <p>・吃音について調べたことや、自分の気持ち・考えをスライドにまとめる。</p> <p>・実演して説明したり、クイズ形式にしたり工夫する。</p>  <p>○作ったスライドを比較し、採用するスライドと順番を決める。</p> <p>○スライドをもとに練習をする。</p> <p>○クラスの友達の前で発表する。</p> 	<p>○シンプルプレゼンを使ってスライドを作っていく。</p> <p>C: 英語が分からないけど、指で書けるから便利だね。</p> <p>C: これ以上かけないのか。それならこっちの言葉にしようかな…。</p> <p>C: いっぱい作ったけど、スライドショーに入れられるのは限られているね。どっちのクイズにしようかな…。</p> <p>C: 入れられなかったスライドの内容は口で言おう。</p> <p>○タブレット画面を大型モニターに映して発表の練習をする。</p>	<p>・1文に入れられる文字数が限られているため、要点をまとめる必要がある。制限が無いとスライドに入れる文章が長くなり発表する時の読み上げ原稿になってしまうことがあるので、必要な制約であった。</p> <p>・1テーマ1スライドで作っていた。クイズをいくつも作ったが、スライドショーで使える枚数にも制限があるため、よく考えて本当に使いたいものを選ぶことができた。</p> <p>・手元の操作が「進む」「戻る」の二つだけなので、操作に気を取られずに発表に集中することができた。</p> <p>・スライドに書いてある文字が少ない分、自分で補足しながら話すため、スライドの内容をよく頭に入れておく必要がある。その練習を重ねた分、自分の言葉で表現することができていた。</p>
ま と め	<p>○活動を振り返っての感想を担当者と話す。</p>	<p>(振り返りは担当者と対話することを通して行ったため、SKYMENUは活用しなかった。)</p>	

## 《実践を振り返って》

- ・「シンプルプレゼン」では、1文に入れられる文字数やスライドショーに使えるスライド数に制限があるため、使う言葉を選んだり、使うスライドを考えたりする必要がある。スライドをまとめるためには発表内容への十分は理解が必要なため、学習内容の理解がより一層深まり、主体的に発表に臨めると考えた。見栄えではなく中身を重視した発表資料を作ることができる。
- ・発表の際には、スライドでは足りない情報を口頭で補ったり別に発表原稿を作ったりすることで、何重にも内容をたどることになる。その活動が学習内容の定着にもつながると考えた。
- ・スライドをシンプルにするには、内容を要約する力や、キーワードとなる言葉を抽出する力が必要になる。今回は2年生の児童で実施したが、担当者が手助けをしたところも多くあった。ことばの教室での実践のため1対1で対応することができたから2年生児童でも作り上げることができた部分もある。通常学級で利用する際には、学年の発達段階に応じた支援が必要だと感じた。
- ・グループで共同作業ができればよいが、シンプルプレゼンにはその機能がない。発表ノート等の機能と組み合わせながら共同的な活動ができないかも考えていきたいと思う。